

平成 21 年 9 月 15 日

平成 21 年度病虫害発生予報第 6 号

長崎県病虫害防除所長

向こう 1 か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
普通期水稻	紋枯病 トビイロウンカ (警報第 1 号参照)	並 多	並 多
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	やや多 並	やや多 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病 (<i>G.cingulata</i>) ハダニ類 ハスモンヨトウ	並 並 やや多 並	やや多 並 やや多 やや多
ブロッコリー	ハスモンヨトウ	並	やや多
アスパラガス	アザミウマ類	やや少	やや少
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ	- 並	やや少 やや多
果樹共通	カメムシ類(技術情報第 2 号参照)	並	並
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ (防除情報第 15 号) クワシロカイガラムシ (防除情報第 15 号)	少 やや多 やや多 やや多 やや多 やや多 やや多	少 やや多 やや多 やや多 やや多 やや多 やや多

【発生予報】 本文の () 内は平年値

普通期水稻

1. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(111筆)の結果、発病株率は3.0%(3.7%)、発生圃場率は44.1%(45.8%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は45.0%(23.9%)であった。

2. トビイロウンカ

平成 21 年 9 月 14 日付病虫害発生予察警報第 1 号参照。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は17.8%(10.1%)、株当たり虫数は1.3頭(0.6頭)、白変葉発生圃場率は40.0%(49.8%)であった。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は4.0%(22.3%)であった。

ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年より多く推移している(図)。

エ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 圃場の見回りを徹底し、新しい白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。

イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

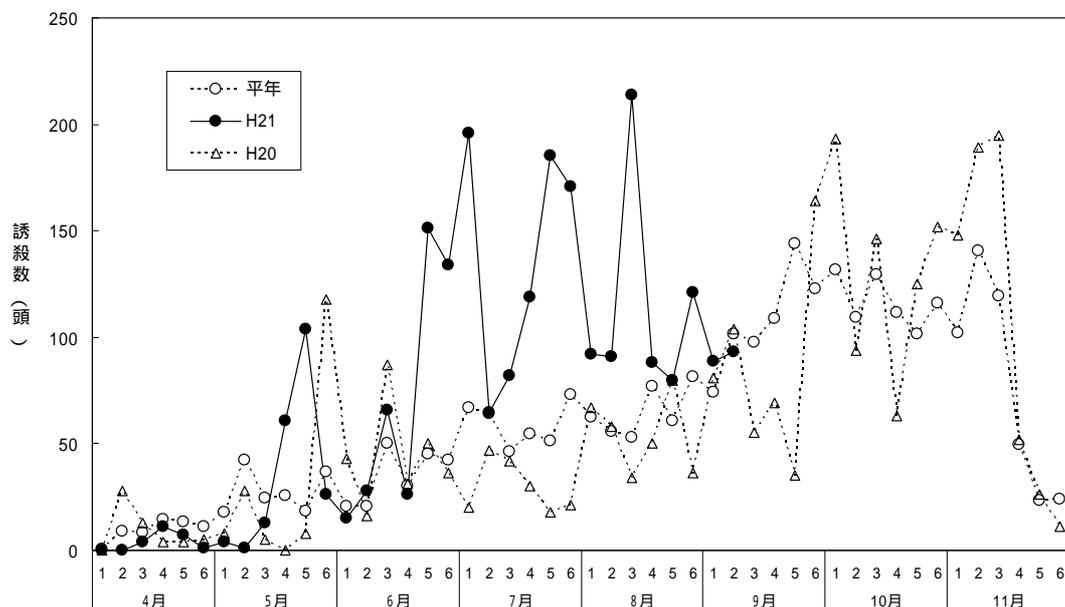


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市)
平年: H11~H20の平均値(最大・小値除く)

(月・半旬)

2. 吸実性カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(寄生株率0.5%、株当たり虫数0.0頭、発生圃場率13.6%)。

イ 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は10.0%(1.8%)、株当たり虫数は0.1頭(0.0頭)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(32筆)の結果、発病株率は0.4%(0.0%)、発生圃場率は9.4%(1.1%)で一部地域において発生がみられた。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 罹病葉や不要な下葉はできるだけ除去し、圃場外へ持ち出し、処分する。
- イ 薬剤は、古葉等を除去処分した後に、葉裏や下位葉にも薬剤がむらなくかかるように十分量を散布する。
- ウ 薬剤耐性菌発達の防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

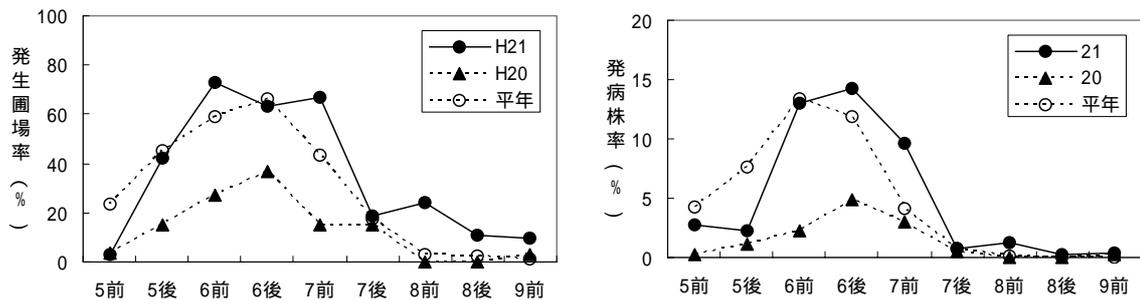


図 いちご育苗床 うどんこ病の発生推移(巡回調査)

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(32筆)の結果、発病株率は0.5%(0.4%)、発生圃場率は6.3%(9.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 発病した株および発病の恐れのある株は速やかに処分し、本圃へ持ち込まない。
- イ 本圃で発病した場合は速やかに圃場外へ持ち出す。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 特に台風の前、後、降雨などにより発生の恐れがあるときは、薬剤散布を徹底する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(32筆)の結果、寄生株率は4.4%(2.7%)、発生圃場率は43.8%(16.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本圃に持ち込まないように、定植前の防除を徹底する。
- イ 薬剤散布は散布むらがおこらないように、葉裏まで付着するように十分量をていねいに散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。
- エ 本圃での天敵放飼を予定している場合は、薬剤によっては長期間影響を与えるものがあるので、使用時期に注意する。

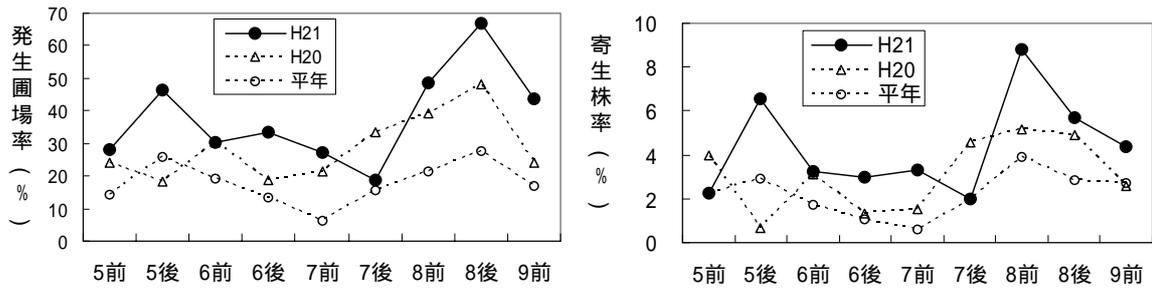


図 いちご育苗床 ハダニ類の発生推移(巡回調査)

4. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(32筆)の結果、食害株率は4.8%(4.5%)、発生圃場率は53.0%(48.6%)であった(図)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年より多く推移している(大豆の項参照)。

ウ 向こう1ヶ月の気温は平年より高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

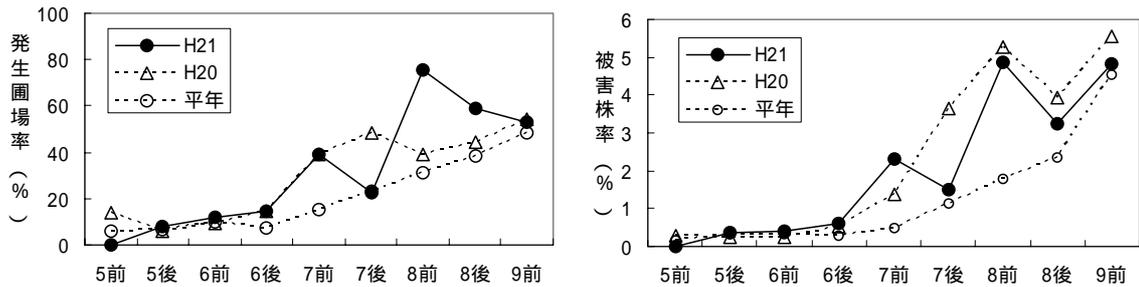


図 いちご育苗床 ハスモンヨトウの発生推移(巡回調査)

ブロッコリー

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 やや多(前年比)

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(7筆)の結果、寄生株率は7.4%(前年 12.7%)、株当たり虫数は1.3頭(前年 0.2頭)発生圃場率は57.1%(前年 55.6%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は平年より多く推移している(大豆の項参照)。

ウ 向こう1ヶ月の気温は平年より高く、降水量は少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は2.4頭(前年3.6頭、前々年22.6頭)、発生圃場率は33.3%(前年88.9%、前々年44.4%)であった。

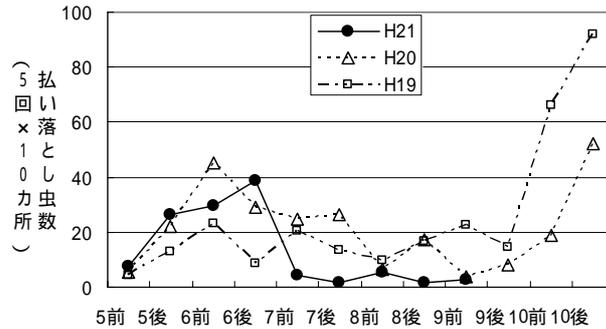


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. 青かび病、緑かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

向こう1か月間の降水量は平年より少ない見込みである。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は8.6%(9.5%)、発生圃場率は61.5%(54.2%)であった。

イ 向こう1ヶ月の降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

果樹共通

1. カメムシ類

平成21年9月4日付病害虫発生予察技術情報第2号を参照。

なお、以後の発生は以下のとおりである。

ア 予察灯(諫早市小船越町)における誘殺数は、平年並に推移している(図1)。

イ フェロモントラップ(諫早市小船越町)の誘殺量は、9月2半旬に増加している(図2~5)。

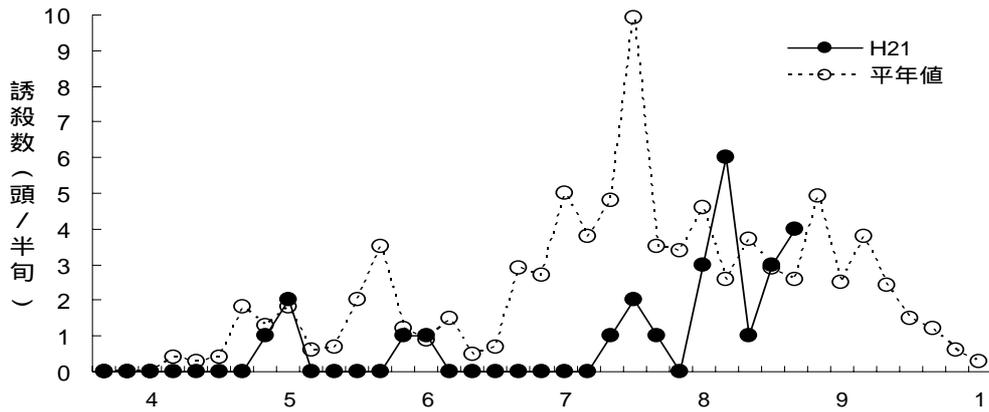


図1 予察灯による果樹カメムシ類誘殺数の推移
(諫早市小船越町)

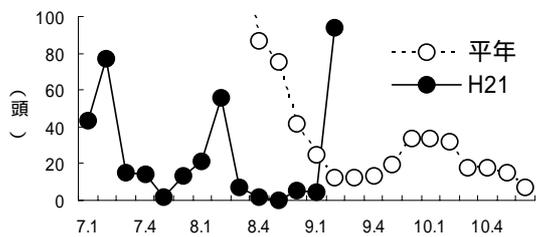


図2 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(諫早:黄色コガネロール)
(月・半旬)
平年は平成15~19年の平均

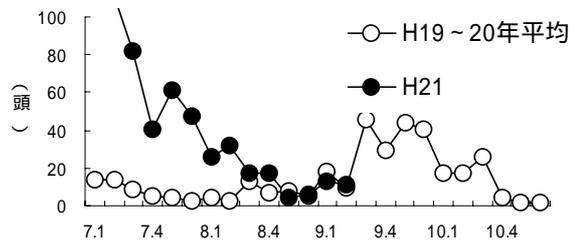


図3 チャバネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況 (西彼:黄色コガネロール)
(月・半旬)
平年は平成15~19年の平均

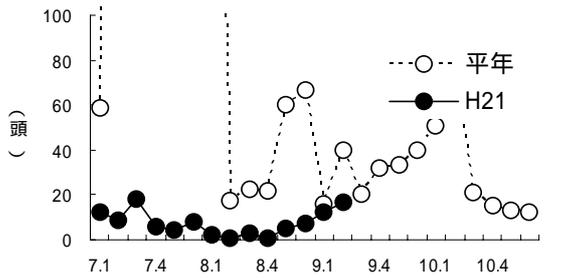


図4 チャバネ・ツヤアオカメムシ誘殺状況(有家:黄色コガネロール)
(月・半旬)
平年は平成17~19年の平均

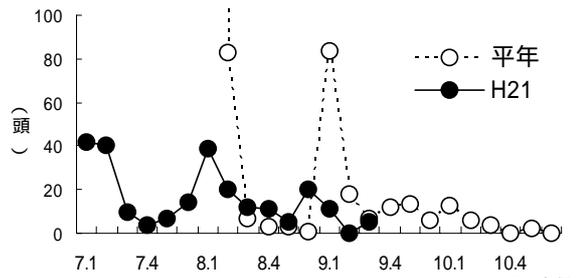


図5 チャバネ・ツヤアオカメムシ誘殺状況(多良見:黄色コガネロール)
(月・半旬)
平年は平成17~19年の平均

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり発病葉数は0.1枚(10.6枚)、発生圃場率は15.0%(58.0%)であった。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は5.5%(0.8%)、発生圃場率は40.0%(16.6%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一薬剤の使用は年1回とする。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は24.0頭(10.1頭)、発生圃場率は85.0%(60.7%)であった。

4. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は1.2枚(0.1枚)、発生圃場率は35.0%(14.2%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は平年よりやや少なく推移している(図)。

ウ 向こう1か月の降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

雌成虫の発蛾最盛期から7~10日後に薬剤散布すると効果が高い。

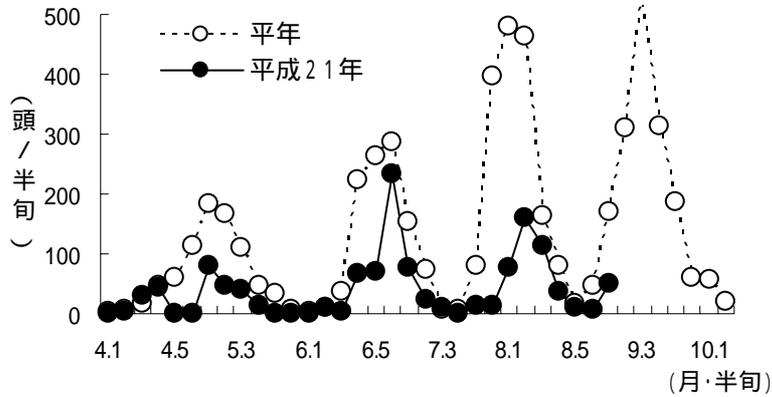


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 9月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は1.4枚(0.7枚)、発生圃場率は55.0%(24.1%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、平年よりやや多く推移している(図)。

ウ 向こう1か月の降水量は少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

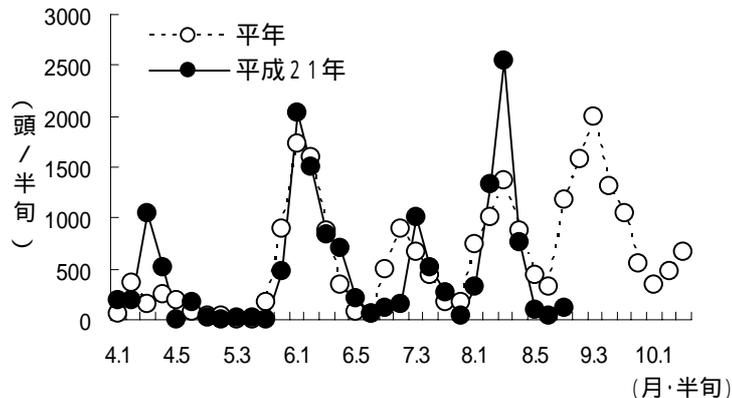


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

6. チャノミドリヒメヨコバイ

平成21年9月15日付病害虫発生予察防除情報第15号を参照。

7. クワシロカイガラムシ

平成21年9月15日付病害虫発生予察防除情報第15号を参照。

【参考】
気象

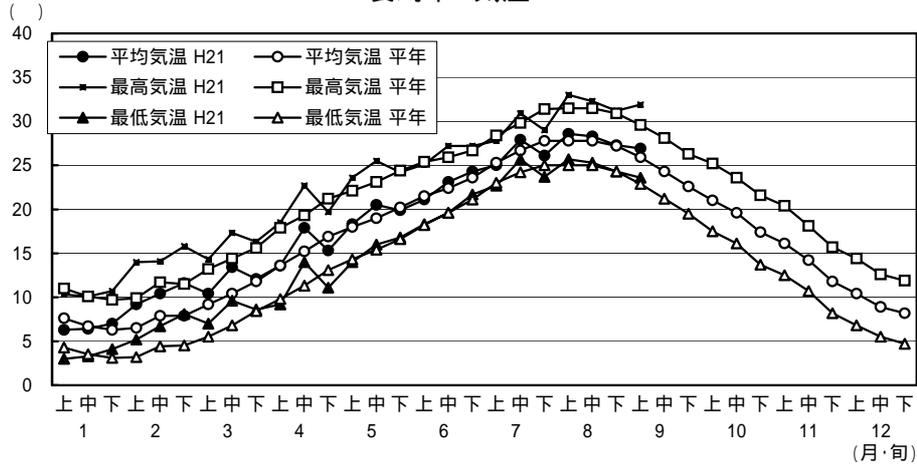
(平成21年9月11日発表 1か月予報 福岡管区气象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	30	40
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

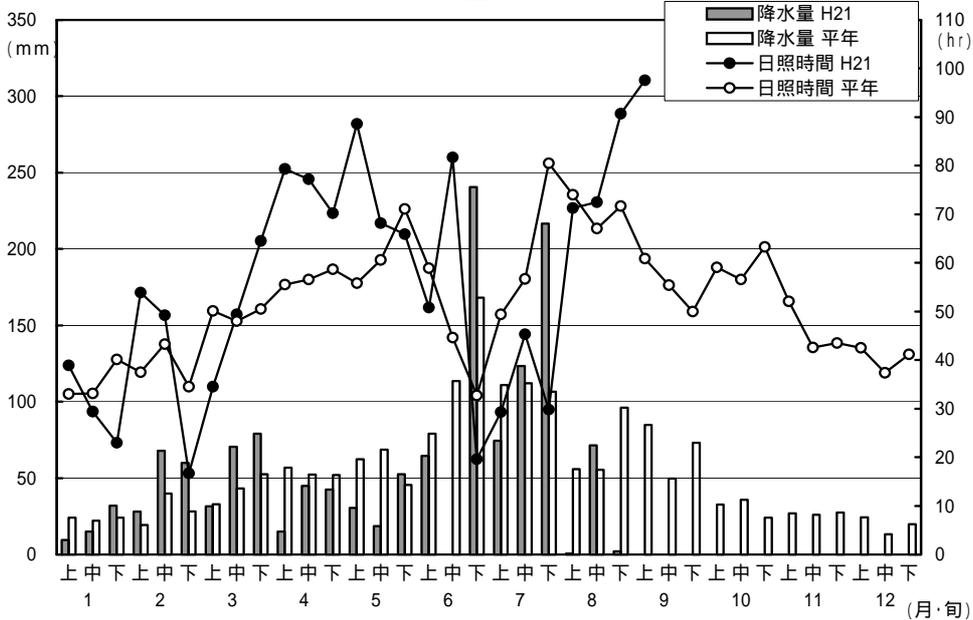
予報対象地域：九州北部地域

平成21年の気象経過（長崎海洋气象台）

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027